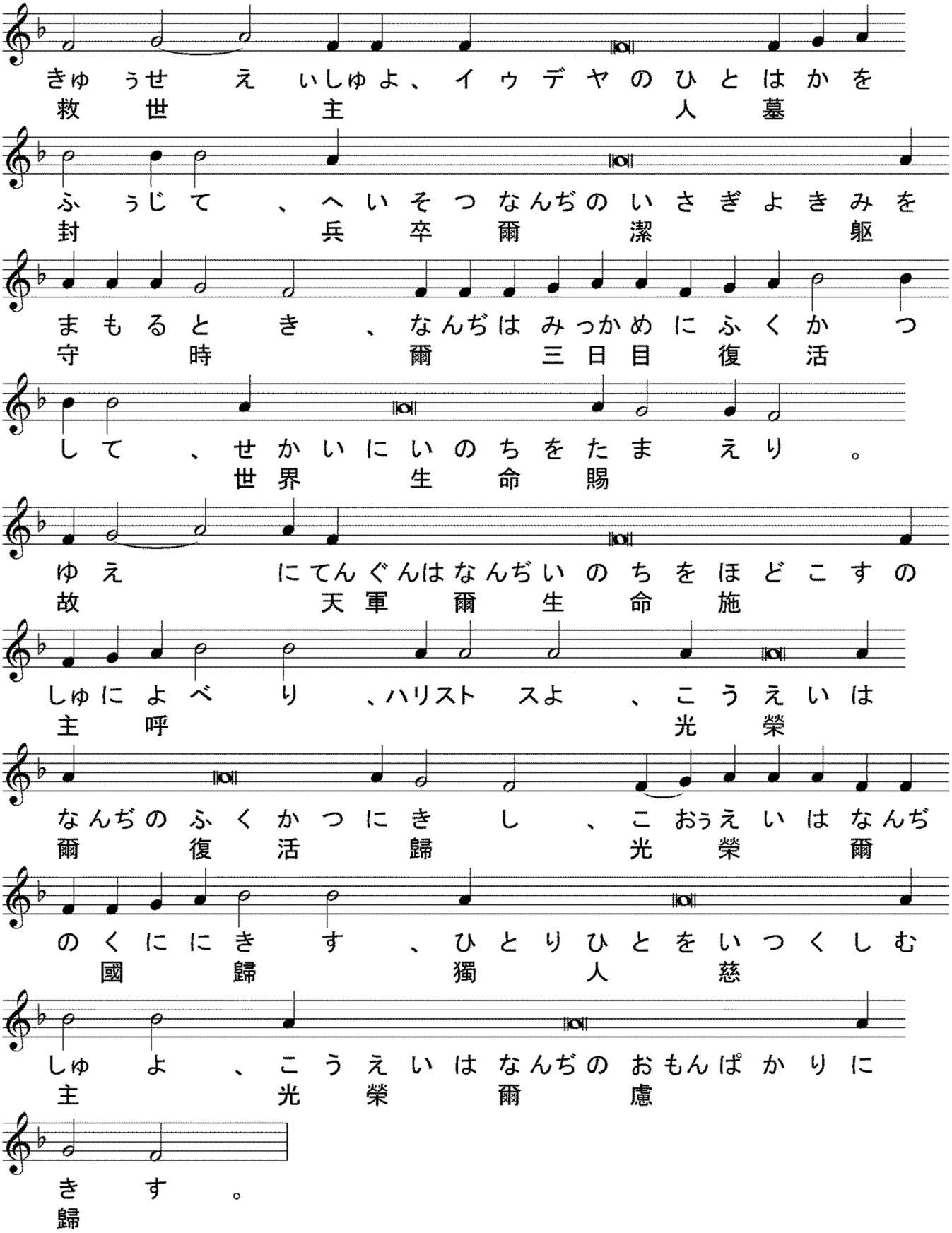
【　復活のトロパリ　第１調　】



【　生神女進堂祭のトロパリ　第４調　】

とびとのすくいはつたえら る 。どうてい
人 救 傳 童 貞

ぢょはあきらかにかみのでんにあらわ れ て 、
女 明 神 殿 現

あらかじめハリスト スをしゅうじんにしら しむ 。
預 衆 人 知

われらもこえをあげてか れによば ん。ぞう
我 等 聲 揚 彼 呼 造

ぶつしゅのおもんぱかりとじょうじゅなるもの よ 、
物 主 思 慮 成 就 者

よろこべよ 。
慶

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第４調 】

しととひとしくどうざな るもの 、ちゅう
使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリスト スのえきしゃ 、せい
實 神 智 役 者 聖

なるしんにえらばれた るふえ 、ハリスト スのあい
神 撰 笛 愛

にみちた るうつわ 、わがくにのこう
滿 器 我 國 光

しょおしゃ 、あしとしゅきょうせいニコラ イ
照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのたぁめ、および
爾羊群爲及

ぜんせかいのために、いのちをたもうせい
全世界爲生命賜聖

さんしゃにいのりたまえ。
三者祈給

【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
成聖者亞使徒聖我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國爾旅人及異邦人受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
爾初我國於己

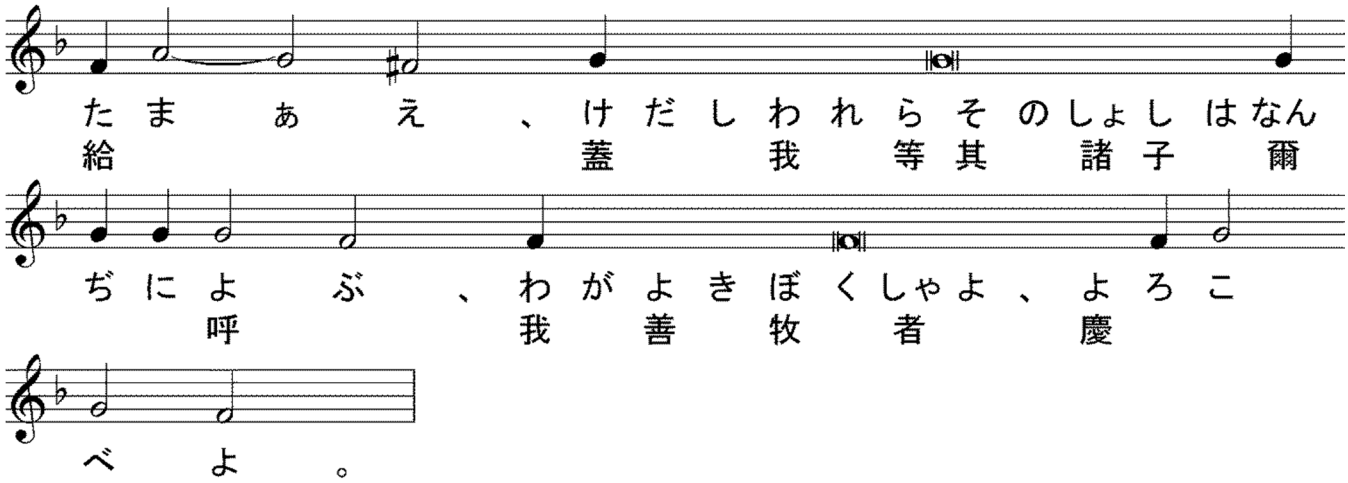
れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
光暖流爾敵

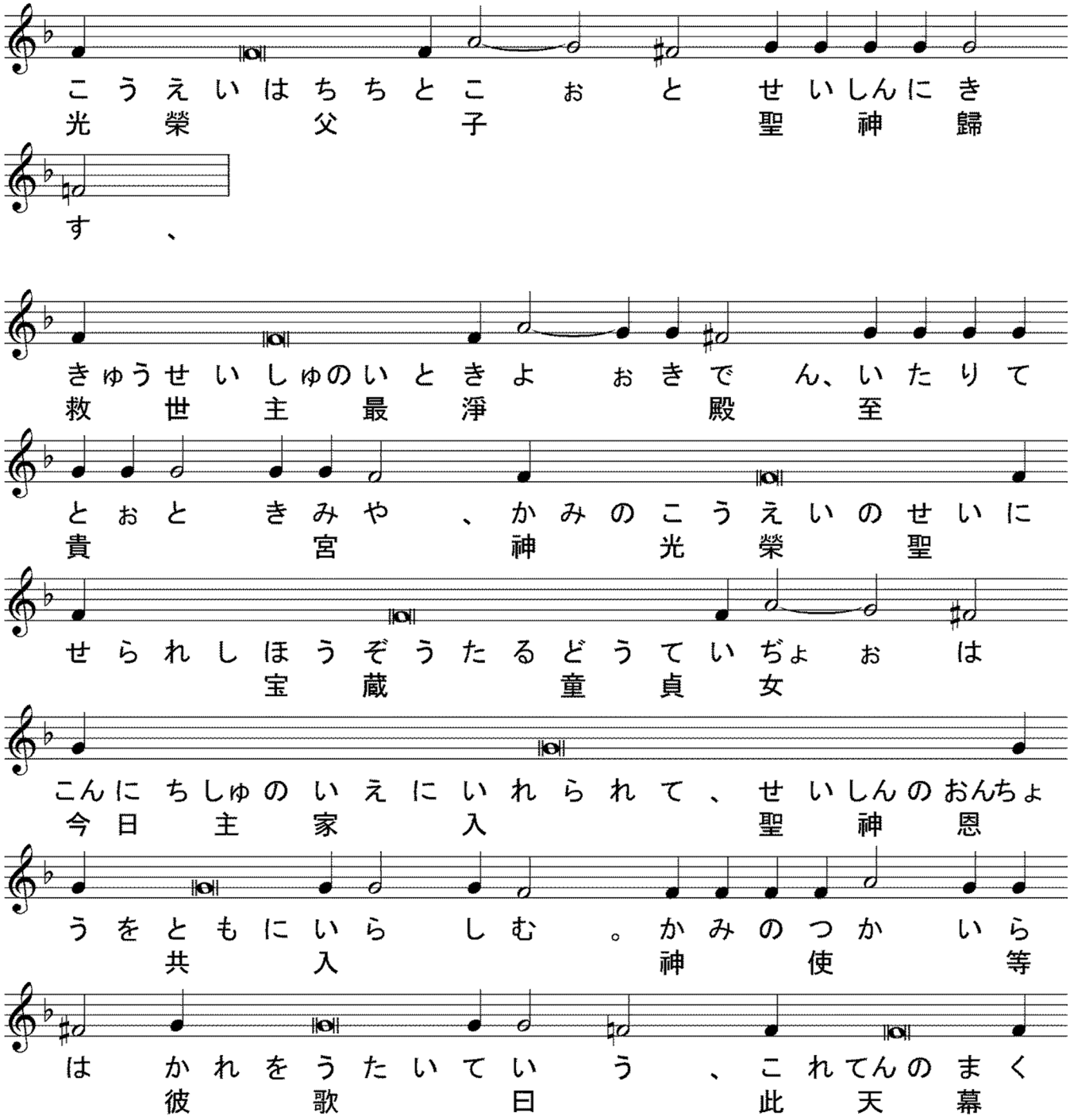
きをぞくしんのことなぁし、かれらにか
屬神子爲彼等神

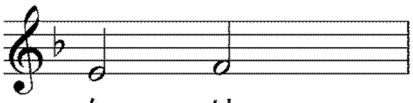
みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建

たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈



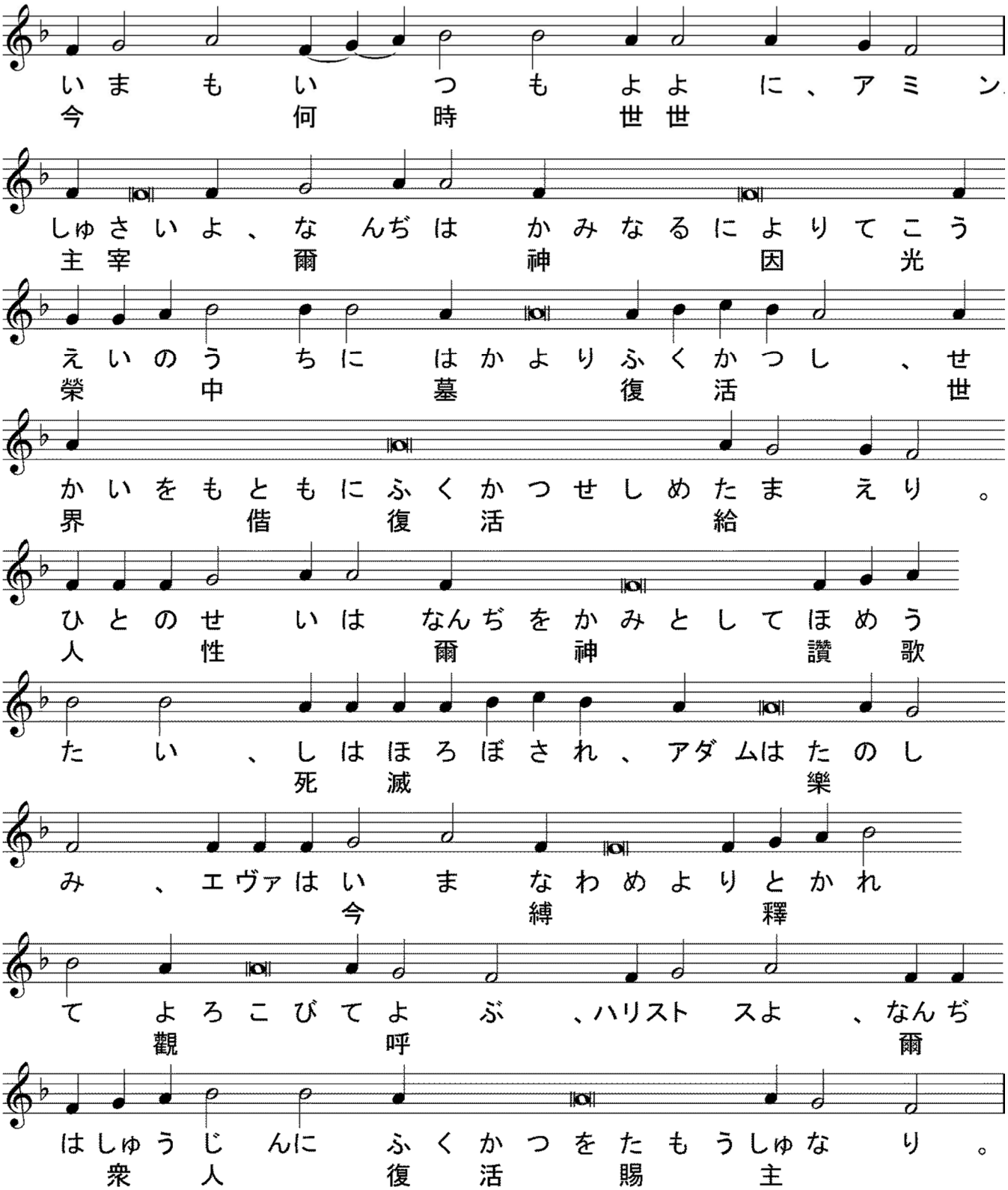
【　生神女進堂祭のコンダク　第４調　】





な り 。

【 復活のコンダク 第１調 】

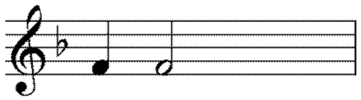


司祭)（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、

ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有と

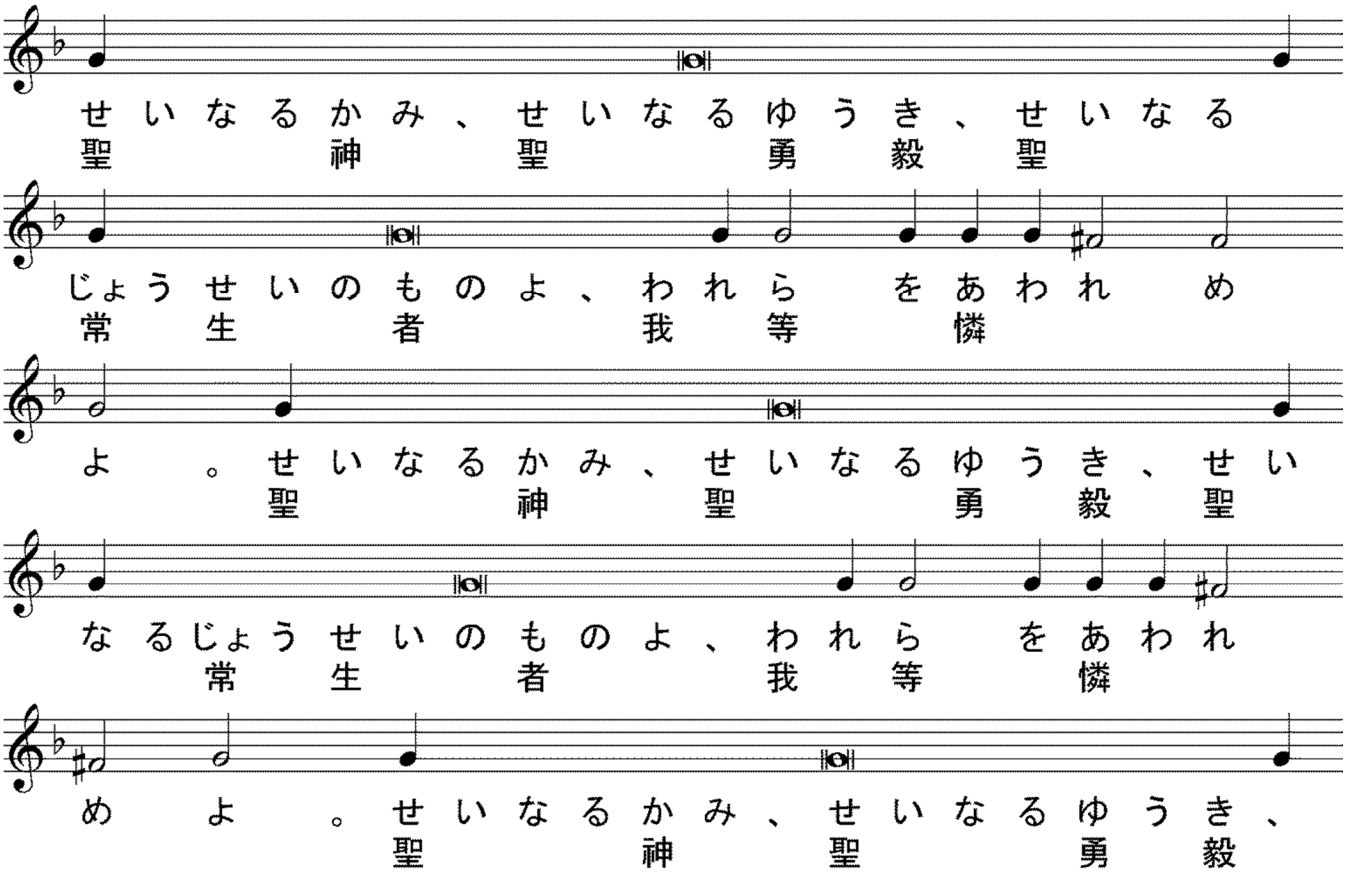
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、　）

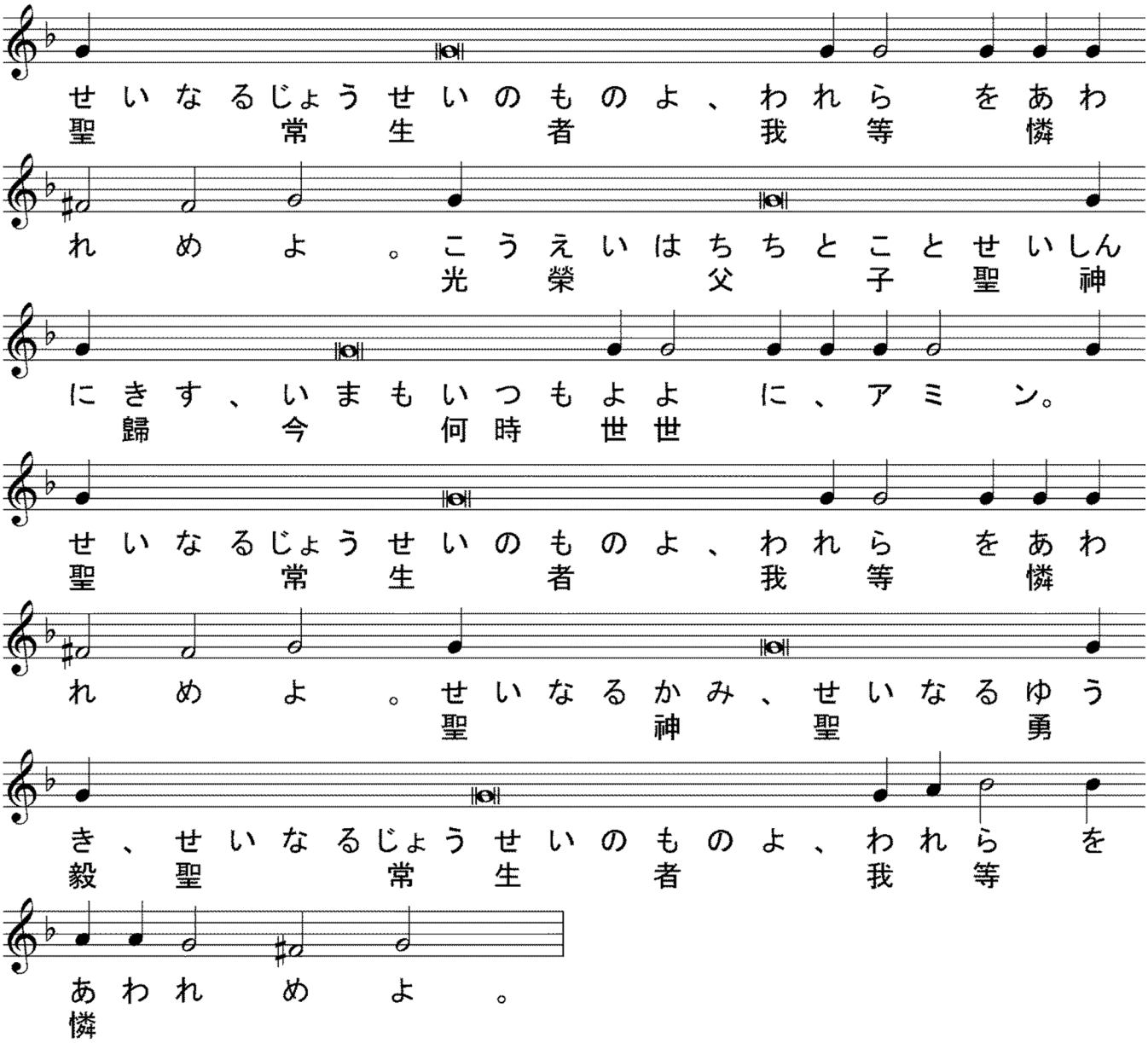
司祭）蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



ア　ミ　　ン。

【　聖三祝文　】





司祭)（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

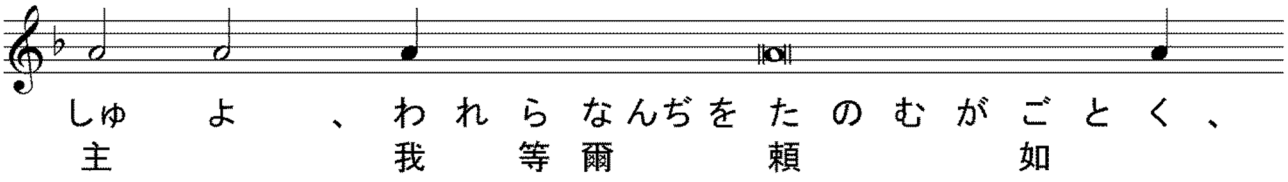
【 提綱 主日第１調 及び生神女の第３調 】

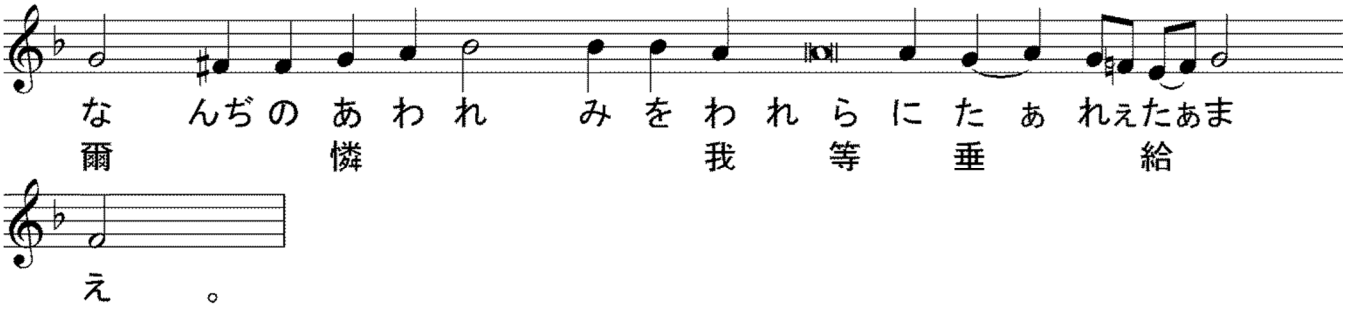
司祭) 愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

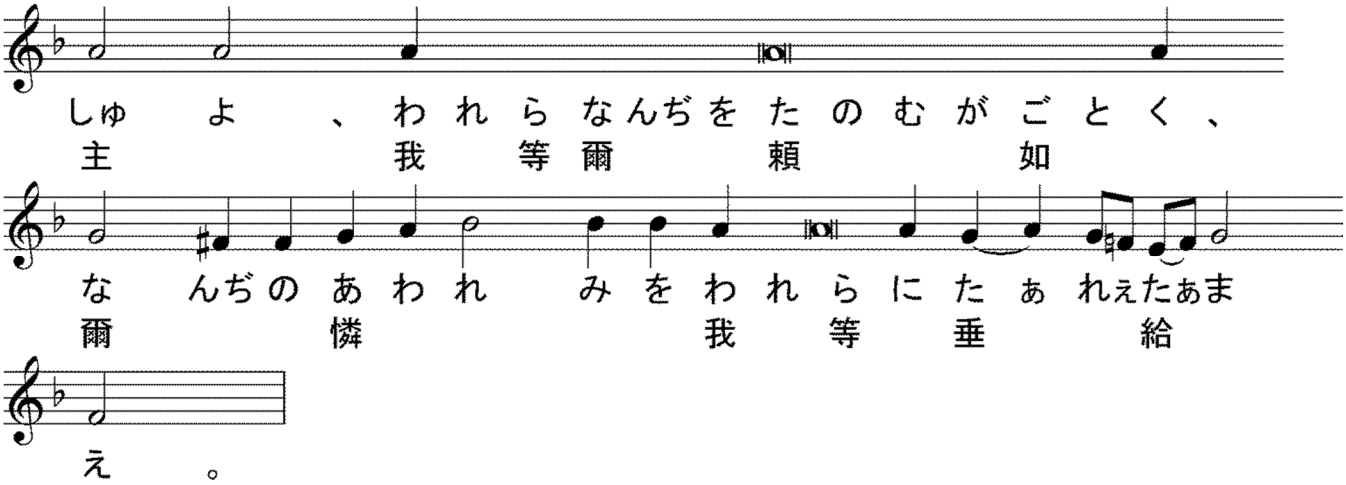
司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

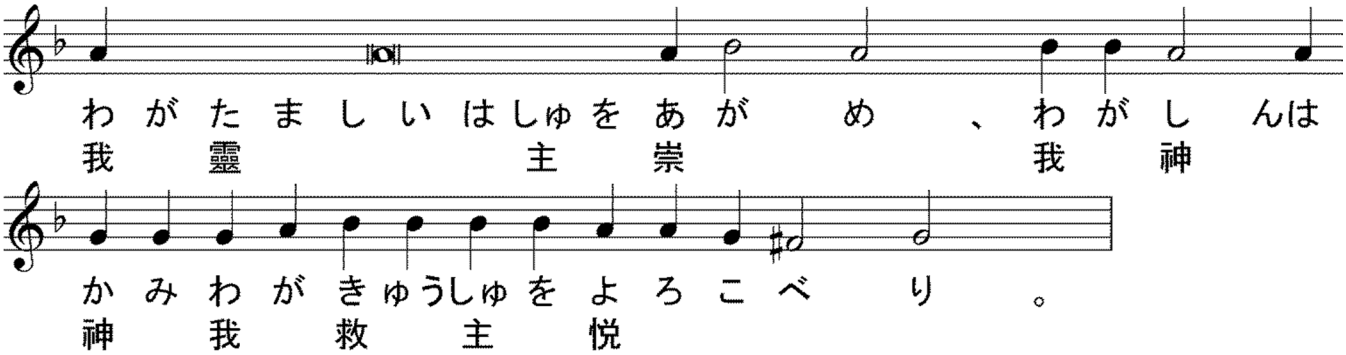




誦經）義人よ、主の爲に喜べ、讃榮するは義者に適う、



誦經）我が靈は主を崇め、我が神は神我が救主を悦べり、



【 使徒經 229端 エフェス書5章8〜19節

320端 エウレイ書9章1〜7節 】

司祭）睿智、

誦經）聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）謹みて聽くべし、

誦經）兄弟よ、光の子の如く行え。蓋神の實は凡の慈愛と公義と眞實とに在り。爾等神の悦ぶ所の何なるを審にせよ、實を結ばざる暗昧の行に與る勿れ、寧之を責めよ。蓋彼等が隱に行う事は、言うも亦耻づ可し。凡そ責めらるる事は

光に由りて顯る、蓋凡そ顯るる事は光なり。故に云えるあり、寐ぬる者起きよ、死より復活せよ、ハリストス爾を照さん。是を以て視よ、行を愼みて無智の者の如くせず、乃智ある者の如くせよ、時を惜むべし、日は惡しけらばなり。是の故に思慮なき者と爲る勿れ、乃神の旨の何なるを覺れ。又酒に酔う勿れ、此れに由りて放蕩あり、乃神に滿てられよ。聖詠と歌頌と屬神の詩賦とを以て、口に唱え、心に和して、主を讃美せよ。

＊＊

（比較用　口語訳）光の子らしく歩きなさい―― 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである―― 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。 彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。 明らかにされたものは皆、光となるのである。だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、 今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。 だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。 酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、 詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。

＊＊

誦經）兄弟よ、第一の約には奉事の例と地に屬する聖所とありき。蓋第一の幕は設けられて、其内に燈臺と、案と、供前の餅とありき、是を聖所と稱す。第二の帷の後に至聖所と稱する幕ありき。玆には金の香爐と、徧く金を蔽いたる約匱とあり、其内にマンナを藏めたる金の壺、アアロンの萌せる杖、及び約の碑あり、其上に贖罪所を覆える光榮のヘルヴィムありき。此等の事は今詳に言うを庸いず。此等の物斯く備わりて、第一の幕には司祭等恒に入りて、奉事を行い、第二の幕には獨司祭長のみ、一年に一次、血を攜えざるなくして入り、之を己の爲及び民の愆の爲に獻ず。

＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ。初めの契約にも、礼拝についてのさまざまな規定と、地上の聖所とがあった。すなわち、まず幕屋が設けられ、その前の場所には燭台と机と供えのパンとが置かれていた。

これが、聖所と呼ばれた。また第二の幕の後に、別の場所があり、それは至聖所と呼ばれた。そこには金の香壇と全面金でおおわれた契約の箱とが置かれ、その中にはマナのはいっている金のつぼと、芽を出したアロンのつえと、契約の石板とが入れてあり、箱の上には栄光に輝くケルビムがあって、贖罪所をおおっていた。これらのことについては、今ここで、いちいち述べることができない。これらのものが、以上のように整えられた上で、祭司たちは常に幕屋の前の場所にはいって礼拝をするのであるが、幕屋の奥には大祭司が年に一度だけはいるのであり、しかも自分自身と民とのあやまちのためにささげる血をたずさえないで行くことはない。

＊＊

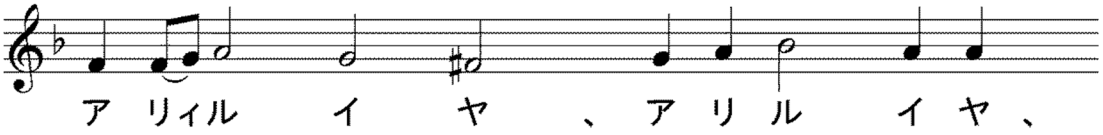
【　アリルイヤ　主日第１調　及び生神女の第８調　】

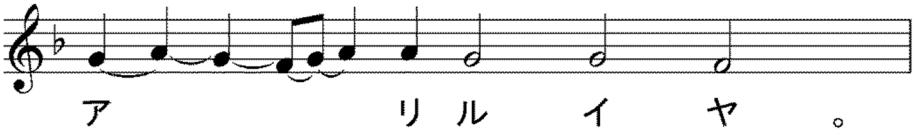
司祭）爾(なんぢ)に平安(へいあん)、

誦經）爾(なんぢ)の神(しん)にも、

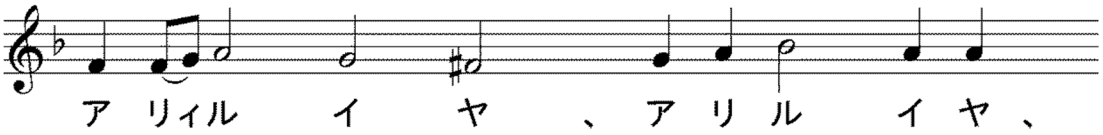
司祭）睿智(えいち)、

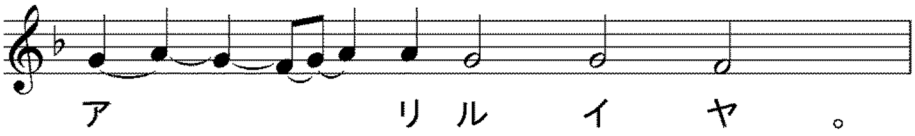
誦經）アリルイヤ、願(ねが)わくは我(わ)が爲(ため)に仇(あだ)を復(かえ)し、我(われ)に諸民(しょみん)を従(したが)わしむる神(かみ)は讃頌(さんしょう)せられん、



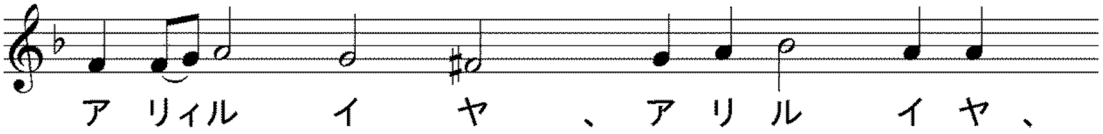


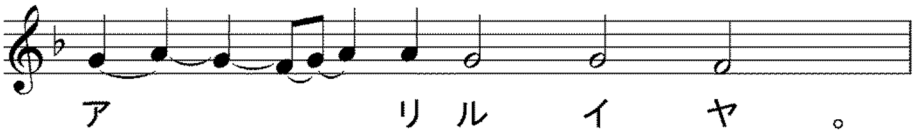
誦經）大(おおい)なる救(すくい)を王(おう)に施(ほどこ)し、憐(あわれみ)を爾(なんぢ)の膏(あぶら)つけられし者(もの)ダヴィド及(およ)び其(そのすえ)裔に世世(よよ)に垂(た)るる者(もの)よ、我(われ)爾(なんぢ)の名(な)に歌(うた)わん、





誦經）女(ぢょ)よ、之(これ)を聽(き)き、之(これ)を觀(み)、爾(なんぢ)の耳(みみ)を傾(かたぶ)けよ、



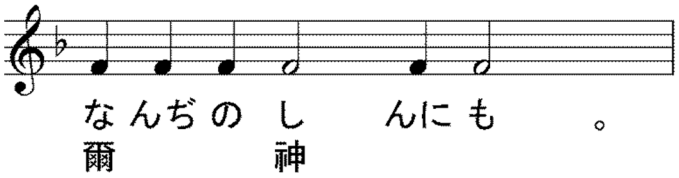


司祭)（ 黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 ）

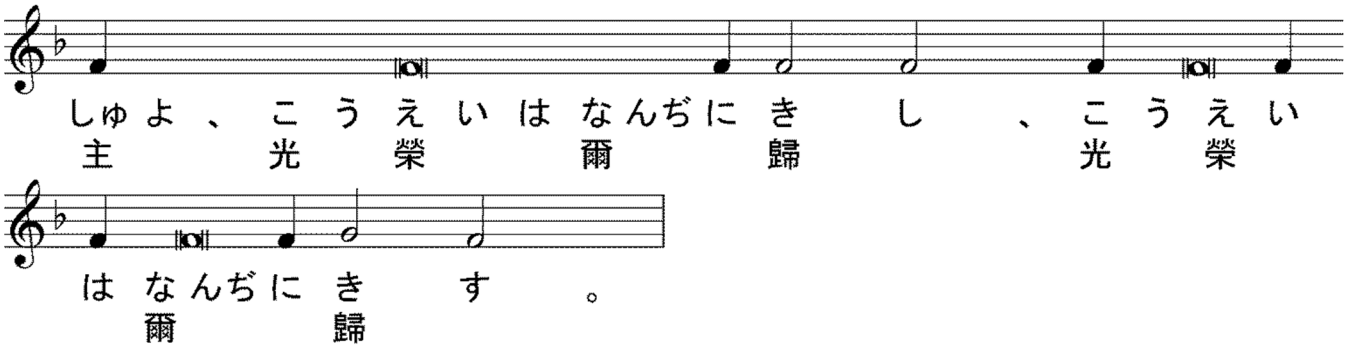
【 福音經 ルカ福音書66端 12章16～21節

ルカ福音書54端 10章38～42節、11章27～28節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



司祭) 謹みて聽くべし、主は左の譬を設けて曰えり、或富める人に田畆の善く實れるあり、彼自ら忖りて曰えり、我何を爲さんか、蓋我が作物を藏むべき處なし。又曰えり、我斯く爲さん、我が倉を毀ちて、更に大なる者を建て、此の中に我が悉くの穀物と貨物とを聚めて、我が靈に謂わん、靈よ、爾には多年の爲に蓄えたる多くの貨物あり、息み、食い、飲み、樂めと。然れども神は彼に謂えり、無知なる者よ、今夜爾の

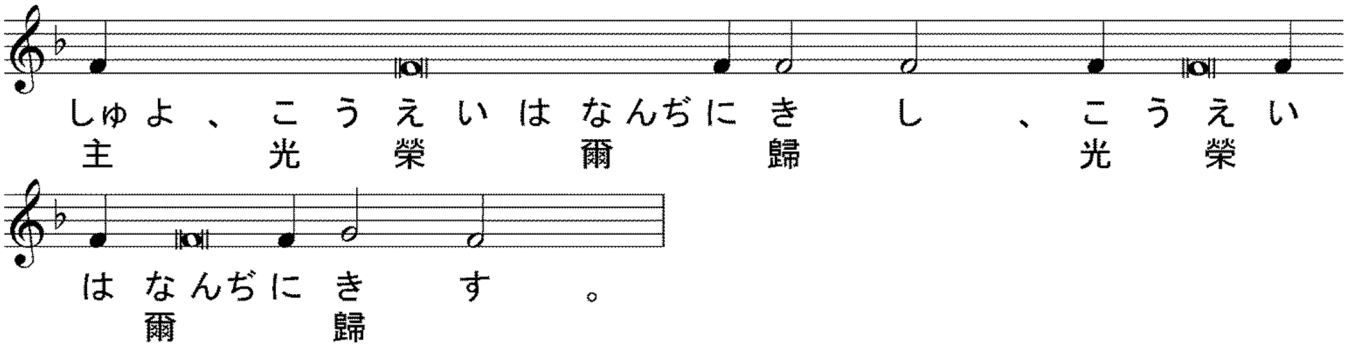
靈を爾より索めん、然らば爾が備えし所の者は誰に歸せんか。凡そ己の爲に財を積み、神に於て富まざる者は是くの如し。

＊＊＊

（比較用　口語訳）イエスは一つの譬を語られた、「ある金持の畑が豊作であった。そこで彼は心の中で、『どうしようか、わたしの作物をしまっておく所がないのだが』と思いめぐらして言った、『こうしよう。わたしの倉を取りこわし、もっと大きいのを建てて、そこに穀物や食糧を全部しまい込もう。そして自分の魂に言おう。たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食え、飲め、楽しめ』。すると神が彼に言われた、『愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。そしたら、あなたが用意した物は、だれのものになるのか』。自分のために宝を積んで神に対して富まない者は、これと同じである」。

＊＊＊

司祭）彼の時、彼等が行ける時、イイスス一の村に入りしに、或婦マルファと名づくる者、彼を其家に迎えたり。其姉妹にマリヤと名づくる者あり、イイススの足下に坐して、其言を聽けり。マルファは供事の多きに因りて心を煩わし、就きて曰えり、主よ、我が姉妹、我一人を遺して供事せしむるを爾意と爲さざるか、之に命じて、我を助けしめよ。イイスス彼に答えて曰えり、マルファよ、マルファよ、爾は多くの事を慮りて心を勞せり、然れども需むる所は一のみ。マリヤは善き分を擇びたり、是は彼より奪う可からず。此を言う時、一の婦民の中より聲を揚げて、彼に謂えり、爾を孕みし腹と爾が哺いし乳とは福なり。彼は曰えり、然り、神の言を聽きて之を守る者は福なり。



＊＊＊

（比較用　口語訳）イエスがある村へはいられた。するとマルタという名の女がイエスを家に迎え入れた。この女にマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、御言に聞き入っていた。ところが、マルタは接待のことで忙がしくて心をとりみだし、イエスのところにきて言った、「主よ、妹がわたしだけに接待をさせているのを、なんともお思いになりませんか。わたしの手伝いをするように妹におっしゃってください」。主は答えて言われた、「マルタよ、マルタよ、あなたは多くのことに心を配って思

いわずらっている。しかし、無くてならぬものは多くはない。いや、一つだけである。マリヤはその良い方を選んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」。イエスがこう話しておられるとき、群衆の中からひとりの女が声を張りあげて言った、「あなたを宿した胎、あなたが吸われた乳房は、なんとめぐまれていることでしょう」。しかしイエスは言われた、「いや、めぐまれているのは、むしろ、神の言を聞いてそれを守る人たちである」。

＊＊

※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ